

2014(仏暦2557)年 夏(7月)号 (第91号)

# 万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行

浄土真宗本願寺派

万行寺 山崎信充

〒385-0003

長野県佐久市下平尾461-1

電話 0267-67-2460



## ■住職法話

お葬式に子や孫を

## ■～結ぶ絆から、広がるご縁へ～ ごえん

## ■本願寺の本

親子で読める ほとけさまのお話

## ■お知らせ、編集後記

## Photo

佐久は千曲川の水源地域です。昔から暴れ川として有名で、長野市で普段見慣れていた千曲川とは少し違い、荒々しい感じがします。

# 住職 法話

## お葬式に子や孫を

開教のため、長野市から佐久市にお寺の拠点を移して六年半になりました。慣れない地に転居をしてみると、正直なところご近所の方との付き合いも大変です。特に、順番でお役などが回ってくる、初めての事ばかりで面倒で厄介なものだと愚痴もこぼしたくなります。

話しは変わって、佐久の観光名所にもなっている「ピンころ地蔵」があります。健康で長生きして（ぴんぴん）、寝込まず楽に往生する（ころ）をヒントに命名されたそうです。家族に面倒や厄介をかけずに往きたいという願いが込められているのでしょう。

どちらも、出来れば避けたいという、皆さまも何かしらこんな思いをされた経験があることだと思います。

この面倒や厄介事は、仏事でも同様にみられるようになり、お葬式の簡素簡略化は最たるものです。手間や時間がかかる面倒なことは避け、家族や親族など人間関係も厄介だと避けるようになってきたからでしょう。人に厄介になりたくないとか、厄介なことは避けたいといった一方的な見方が先立って、本来の意味やそのものをも否定してしまうことは寂しい気がします。以前、タレントの石原良純さんが、今の若者に対してテ

レビでこんなことを言っていました。「今の若者は無駄なことをしなくなった。無駄なことと分かれば何もしようとしない。昔は子供の頃、大人から見ればこんなことという無駄なことをしながら成長していった。」その通りだと思います。何でもネットで調べれば簡単に分かる時代に育った子供だからでしょう。

先日、佐世保で同級生を殺害したという信じられない痛ましい事件が起きたばかりです。事件の全容はこれからですが、「解剖を人間で試したくなつた」と逮捕された高校一年の女子の供述を聞くと、成績は良くて万能だそうです

が、人の生き死に関する面倒や厄介事は無駄なこととして知らずに成長していったのではと思えてなりません。

面倒や厄介事は無駄なことではありません。その過程を通して、様々なつながりを持ちながら、家族や地域の人ばかりでなく、いろんな生き物のいのちを通して生かされているのだと気付かされたとき、初めてのいのちは尊いと感じるものです。何でもプロセス（過程）が大事です。人の死は忌み嫌うものではなく、いのちの尊さに気付かされる出来事です。子や孫にすすめてお葬式に出る場を与えてほしいものです。



「結ぶ絆から、  
広がる縁へ」

# いっせん

③わたしたちが認識  
している以上に、遠  
くまで広がっていま  
す。

「縁の広がり」

質問です。名前しかわから  
ない、全く見も知らぬ遠くの  
人へ手紙を届けなくてはなり  
ません。何人を仲介すれば、  
目的の人に、その手紙は届く  
でしょうか？

これは、アメリカで一九六  
〇年代に実際に行われた実験  
です。一六〇〇キロ離れた土  
地に住むビジネスマンに、自  
分より関係の深そうな方に手

紙を渡すという方法で、人づ  
てに手紙を送ろうとします。

すると、平均して、たったの  
六人を介するだけで目的の人  
物に届くのです。これはアメ  
リカ国内での実験でしたが、  
二〇〇二年には、世界規模で  
同様の実験を行いました。す  
ると、やはり同じく六人で届  
いたそうです。

私たちは広い世界の中で、  
ばらばらに生きていくように  
思いがちです。遠くにいる人  
であれば、全く無関係に生き  
ているように感じてしまいま  
す。しかし、誰もが、たった  
六人を通してつながり合っ  
ていける世界、「スモールワー  
ルド」に生きているというこ  
とを、これらの実験は証明し  
たのです。インターネットが  
急速に発達している現代で  
は、世界は、さらに小さなも

のになっていくことでしょ  
う。

しかし、私たち人間は、私  
と外の世界を切り分けて認識  
する習慣を持つため、つな  
ぎを断って、世界を認識して  
しまいがちです。それによっ  
て、自己中心的な視点に縛ら  
れ、自己へのとらわれから離  
れられなくなり、つながって  
いても、また、つながる可能  
性があっても、そのことを自  
覚することができないでいま  
す。個別に独立した存在とし  
て切り離された関係をつく  
り、お互いに、ねたみ、怒り、  
非難の心で見えてしまうのが、  
私たちのありさまなのであ  
り、疎外そがいされる人々を生み出  
す私たちの社会のありのまま  
の姿です。

遠い、近いという感情は、  
私たちの心がつくり出すもの

です。自他を隔へだてることにな  
い仏さまの智慧を鏡ちえとするこ  
き、自己のとらわれから離れ  
られない私たちに、分別する  
あり方を省みて、互いにつな  
がりあっていける可能性が、  
開けてくることでしょう。

「編集・発行／浄土真宗本願寺派総合研  
究所、重点プロジェクト推進室」より



## ～本願寺の本～

### 『親子で読める ほとけさまのお話』

本願寺出版社 刊／仏教こども新聞社 著

定価 1,296円(税込)

浄土真宗本願寺派発行の「仏教こども新聞」がついに書籍化。

写真やイラスト、漫画を豊富に掲載した親子で仏教に親しめる一冊。

まんが ブッダのおしえ

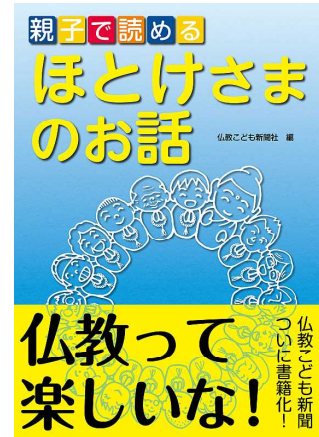
48のメッセージ・おもちゃ箱

おにすけとしんらんさま

お家の方へ

四コマまんがあみださま

あとがき



(本願寺出版社HPより)

## 「万行寺門信徒会」会員の皆さまへ

「万行寺門信徒会」より、本年度の会費のお願いを6月上旬にご案内致しました。納めていただいた方々には、厚く御礼を申し上げます。浄財として大切に使用させていただきます。

まだ納めていただけてない方におかれましては、納入期限を過ぎましても本年度内で受け付けていますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

### 編集後記

寺報発行を、毎月から年四回に変更して、編集にも余裕が出来ました。毎月、忙しく発行していると、後になって文面や内容の反省点が見つかる始末です。少し落ち着いて考える時間をいただいています。◆この寺報の編集集中に、ちょうど佐世保の同級生殺害事件のニュースがあり、急ぎよ「住職法話」にも反映しました。法話ではなく「感話」になりましたが、現代社会にとつて、とても大切なことだと思えます。「念仏の声を世界に子や孫に」という以前の本願寺のスローガンを思い起こしました。

